

科目名		学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語 I (現代文・漢文) : Japanese I		1MSB	2	90分×30回	履修	講義・通年	—
教員名		畑村学: HATAMURA Manabu					
授業概要	<p>1年間を定期試験を区切りとして4つに分け、前期は、(1)読解と要約——文章を読み大事な箇所やキーワードを探し、主観と客観により線を引き分ける、要約文を書く、(2)図解——文章を構造化する簡単な図の作成、図を説明する説明文の書き方——を学習する。後期は、(3)スピーチ・プレゼン——1～3分間でスピーチ・プレゼンを行う。原稿の書き方、話し方、聴き方、質問の仕方を学習——、(4)小論文——主題、段落を意識した文章の作成——を学習する。</p> <p>また、1年間を通じて漢字テスト(漢字問題集)、読書(年間20冊。一行感想)を継続して行う。授業ではレポート課題を出し、到達目標として掲げる4つの力の定着をはかる。</p>						
到達目標				評価方法			
<p>(1)読書の習慣が身につく。年20冊以上の本を読み、読んだ本に対してコメントが書ける。大事な箇所やキーワードに線を引き分けながら文章が読める。(読む力)</p> <p>(2)型を利用して文章が書ける。長文を読んで要約、コメントができる。文章の内容を要約する簡単な図が書ける。漢字検定3級をクリアできる程度の漢字の知識が身につく。(書く力)</p> <p>(3)スピーチやプレゼンテーションの基本を学習し、テーマや構成が明確であり、説得力のある話し方(声、態度、資料の示し方)ができる。(話す力)</p> <p>(4)スピーチの評価ができる。スピーチに対して具体的に本質的な質問やコメントができる。(聴く力)</p>				<p>①定期試験(中間・期末試験)、②レポート及び提出物により評価する。各評価は、①定期試験60%、②レポート等40%とし、4回の評価の平均を学年末の成績とする。国語 I [3単位]の最終評価は、国語 I (現代文・漢文) [2単位]と国語 I (古文) [1単位]を2:1として総合的に評価する。</p>			
学習・教育目標		(G)①		JABEE基準1(1)			
授 業 計 画	回	項目	内 容	回	項目	内 容	
	第1	ガイダンス	国語の授業概要・到達目標・成績評価方法等をシラバスを中心に説明し、一年間の授業内容を理解する。	第16	スピーチ・プレゼン①	<p>本単元では、スピーチ・プレゼンのための「発表メモ」の書き方、スピーチ・プレゼンの仕方(話し方、態度など)、聴き方、質問・コメントの仕方を学ぶ。</p> <p>スピーチやプレゼンの内容は、発表メモを利用し、テーマや内容の構想を練る。実際の授業では、少～中人数のグループで基本的に行う。発表者は話し方や時間配分を考えて話す。また、前期に学習した図解の知識と技術を活かし、スピーチやプレゼンに効果的な資料を作成し、それを使って話をする。</p> <p>聴く側は、スピーチやプレゼンを審査する。また、スピーチやプレゼンに対して質問やコメントを行う。質問やコメントは、本質的で具体的なものを心がける。</p> <p>以上を繰り返し行うことで、話す力・聴く力を修得する。</p>	
	第2	読解と要約①	「要約」とは、複雑な事象のなかから大事な箇所を抜き出し、それを整理して提示したものである。情報化社会では、大量の情報の中から重要なものを選び、秩序立てて再構成する作業には「要約力」が必要となる。また、要約力は、対話やコミュニケーションにおいても必要である。	第17	スピーチ・プレゼン②		
	第3	読解と要約②	授業では、教科書や教科書外の文章を教材として要約力を鍛える。具体的な作業として、文章に線を引いたり、キーワードに印をつけながら読んでいく。線の引き方にはポイントがあるので、最初にそれを学習してから文章を読む。	第18	スピーチ・プレゼン③		
	第4	読解と要約③	線を引いた箇所を引用して「要約文」を書く。要約文の9割は本文の引用であり、残りの1割がつなぎの言葉や補足の言葉である。線を引いたのもっとも大事な箇所や、文中のキーワードは必ず要約文に引用する。	第19	スピーチ・プレゼン④		
	第5	読解と要約④	以上の作業を授業やレポート等でくり返し行うことで、要約力を養う。	第20	スピーチ・プレゼン⑤		
	第6	読解と要約⑤		第21	スピーチ・プレゼン⑥		
	第7	読解と要約⑥		第22	スピーチ・プレゼン⑦		
	第8	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。	第23	中間まとめ		中間まとめとして試験を実施する。
	第9	図解①	<p>文章を読解・要約するための図の基本的な書き方を学習する。また、図を説明する説明文の書き方を理解する。</p> <p>国語で言う図とは、文章の構造を理解して、文中の「関係」や「変化」などを、文中の語句(キーワード)や表現を利用しながら、矢印や丸を使って簡潔に表すことである。</p> <p>図は最もシンプルな要約であり、骨格に当たる。複雑な物事や事柄をわかりやすい図として提示できる能力は、プレゼンテーションなどでも必要とされる。</p> <p>テキストは教科書に掲載される現代文や漢文および新聞記事、広告などを用いる。</p> <p>レポートとして、身のまわりの様々な事象を図解する。</p>	第24	小論文①		
	第10	図解②		第25	小論文②		<p>「小論文」とは、社会問題に対して知性や論理性をアピールするものである。「英語教育の偏重」「公的な場所での禁煙」等が小論文の課題である。</p> <p>1年生の小論文では、学生にとって身近な学内の諸問題や、教育に関わる社会問題を課題として取り上げる予定である。</p> <p>小論文は、主題を明確にし、段落を意識した文章を書く。そのために、まずプリントを利用して、課題の検討、主題の決め方、段落構成の仕方等を理解し、その上で小論文を書くことにする。</p> <p>課題を変えて何度も書くことで、わかりやすく、主旨の明確な文章の書き方を習得する。</p>
	第11	図解③		第26	小論文③		
	第12	図解④		第27	小論文④		
	第13	図解⑤		第28	小論文⑤		
	第14	図解⑥		第29	小論文⑥		
第15	図解⑦	第30		小論文⑦			
自学自習の内容	レポートの完成度や提出状況などで判断する。						
関連科目							
教科書	『精選国語総合』東京書籍						
参考書	『カラー版新国語便覧』第一学習社						
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う						
副担当教員							
備考							